

はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢市で流行が確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界的流行を引き起こし、ウイルスは変異しながら感染力を増しています。このような中、千葉県衛生研究所におきましては、ウイルス感染症の検査・研究機関として、県内の医療機関から保健所を通じて依頼のあった検体の新型コロナウイルス PCR 検査や変異株のスクリーニング、本年6月からはゲノム解析を開始し、早期にデルタ株の患者を確定させるなど感染拡大の防止に関して重要な役割を果たしてまいりました。

現在も流行は継続しており第5波を引き起こしたデルタ株から置き換わり世界中でオミクロン株の感染が拡大しており、先が見えない状況下、オミクロン株の水際対策で航空機での濃厚接触者のゲノム解析など対応に追われています。

当所は、健康福祉部関係各課、保健所、他の自治体などと連携を図り、公衆衛生に係る「調査研究」、「試験検査」、「研修指導」、「情報の収集・解析・提供」を4本柱として日々業務に当たっています。県の施策や計画に基づく感染症・食中毒の細菌やウイルス等の検査のほか、医薬品、食品、飲料水等の規格基準に関する検査を実施して感染症予防、食や生活の安心・安全の確保に努めるとともに、疾病予防や新たな検査法の確立などの研究を行っています。また、保健所職員等に対して研修指導を実施して県全体の更なる技術的・専門的な保健衛生の向上に努めています。更に、感染症に係る疫学情報を収集・解析し千葉県感染症情報センターとして最新情報を発信するとともに、生活習慣病にスポットを当てた調査研究や自殺の現状分析など県民の健康づくりや疾病予防に関する情報提供を行っています。

近年は人事異動による検査の質や職員のモチベーションを低下させることなく、検査精度の確保と人材育成の両立が課題となっていますが、当所が掲げる「県民の安全と健康を支える」ため、公衆衛生における科学的かつ技術的な拠点として職員一同これからも精進していく所存です。

国立感染症研究所や全国の地方衛生研究所などの関係機関と連携を密にして業務に取り組み、県民の皆様に親しまれ、より信頼される研究機関となるよう、一層の努力を重ねていきたいと考えています。

今後とも各方面から御支援を賜りますようお願いいたします。

令和3年12月

千葉県衛生研究所
所長 石川 秀一郎